令和４年度

学校評価報告書

帝塚山小学校

学校法人帝塚山学園

令和４年度学校評価について

帝塚山小学校は、令和４年度の教育活動及びその他の学校運営の状況について、学校評価を実施しました。

学校評価は、本校児童とその保護者を対象とした各アンケート結果、育友会等との懇談会で寄せられた御意見等を活用のうえ自ら評価を行い、さらにその結果について学校関係者による評価を行いました。

このたびの結果を踏まえ、更なる教育水準の向上を目指して、教育活動及び学校運営の改善工夫に組織をあげて継続的に取り組んでいく所存です。

帝塚山小学校
校長　野村　至弘

令和４年度　学校評価

１．総括

学　校　名	帝塚山小学校
建学の精神	社会に有為な人材を育成する
重点目標 （教育目標）	豊かな経験と学力で生きぬく力を育む教育 “「根っこを鍛える教育」を目指す”
前年度の成果と課題	［成果］ 令和３年度は、前年度に引き続き、コロナ禍との共存の中、感染予防対策に重きを置く必要があったことから、予定していた行事や学習活動が中止になったり、規模を縮小せざるを得ないこともあった。しかし、以前に比べ、感染症としての実態も徐々に解明され、予防策についてもはっきりしてきたので、感染予防対策を徹底した上で、細心の注意を払いながら行事や活動を実施することができたと考える。これにより、運動会や音楽祭、国内留学など、本校の主な行事を開催することができ、夏合宿についても、中止するだけでなく、宿泊に代えて、日帰りでのフィールドワークを実施し、学びを止めない方針を示すことができた。 また、１月頃からのオミクロン株の流行は予想以上に小学校に大きな影響をもたらし、これにより、欠席者が急増し、学校閉鎖や学年閉鎖を余儀なくされたため、３学期の行事も変更せざるを得なくなった。２月中旬になって、ようやく落ち着きを見せ始めたため、卒業式や修了式は、規模を縮小したものの予定通り開催でき、制約は厳しかったが、無事令和３年度を締めくくることができた。 ［課題］ 新しい生活様式が求められる中、安全安心な学校運営を目指すことが急務である。特に新型コロナウイルス感染拡大防止の環境の中、児童の学習保障をどのように進めていくか検討が必要である。そのため、前年度の反省を活かしながら、タブレット一斉導入にあたる令和４年度は、いかに個別最適化学習に活用できるかが大きな課題となる。

２．自己評価

評価は４段階【Ａ：十分である（よくできた）、Ｂ：ほぼ十分である（できた）、Ｃ：あまり十分でない（あまりできなかった）、Ｄ：改善を要する（できなかった）】

評価項目	具体的目標・方策及び評価指標 ※（　）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 （評価の観点、理由）	今後の課題・改善方策
１．建学の理念に基づく学校教育目標の共有化	①　建学の精神に基づく学校教育目標を教員組織内でしっかり共通理解し、前年度の反省を踏まえた新たな到達目標を確実に共有するとともに、実行するための校務分掌を構築する。（校務分掌表、各部、委員会報告書類）	A	A	①　建学の精神に基づく学校教育目標を教員組織内でしっかり共通理解するための会議を実施。到達目標を確実に共有する機能的な校務分掌を構築し、運用した。	①　校務分掌表、各部、委員会報告書類をもとに、教職員に周知する。
	②　教育目標実現のために、教員組織で検討・研修を重ね、育友会総会及び保護者会で説明の機会を設けるとともに、学校だより、学級通信、校長室だより等を通じて具体的な取組みを伝える。（全学年保護者会資料、学校だより、校長室だより、学級通信）	A		②　教育目標実現のために、教員組織で検討・研修を重ねた。保護者には学校だより、学級通信、校長室メール等を通じて具体的な取組みを伝えた。	②　全学年保護者会資料、学校だより、校長室だより、学級通信に記載し、教職員、保護者に周知する。
２．　ＩＣＴ教育を推進し、教育の個別最適化をめざす	①　タブレット端末導入にあたり、デジタル教材、オンライン教材の有効活用に向け、各教科において研究と研修を図る。（授業研究部計画に基づき、デジタル教材の研究・研修）	A	B	①　タブレット端末導入にあたり、デジタル教材、オンライン教材の研究と実践事例に基づき研修を実施した。	①　現状を踏まえた授業研究部計画に基づき、デジタル教材の研究・研修の実施。
	②　各教科における、タブレット端末活用法研究に基づき、有効活用を積極的に推進し、効果を検証する。（情報教育部報告により教職員で活用法を共有。）	A		②　情報教育推進委員会が中心になり、タブレット端末活用法研究を推進。有効活用を進め、効果を検証した。	②　情報教育部報告により教職員で活用法を共有する。
	③　各学年での学力定着を強化し、児童のさらなる学力向上を図る。タブレット導入にあたり、　ＩＣＴを有効活用した学習の個別最適化をめざす。（タブレットを活用した個別最適化学習の実施、検証）	A		③　児童の学力向上を図るため、タブレットを有効活用した学習の個別最適化を目指し、今年度の活用実績を検証。学年によって多少の差異はあるが、概ね順調な活用ができた。	③　タブレットを活用した個別最適化学習の実施、検証する。
	④　本校独自の情報科カリキュラムにおけるプログラミング学習を効果的に実践し、プログラミング的思考の定着を図る。 　また、各学年の系統的な指導を実践する。（プログラミング学習を系統的に実施。内容の検証）	A		④　本校独自の情報科カリキュラムにおけるプログラミング学習を効果的に実践し、プログラミング的思考の定着を図った。	④　プログラミング学習を系統的に実施。内容を検証する。
	⑤　情報科による「プログラミング教育」に基づき、５・６年生全員にその発展教育として「出張ロボット体験授業」を実施する。 　また、希望者によるロボット教室を年間計画のもと開講し、技術力の向上を図る。（発展教育として「出張ロボット体験授業」を実施）	C		⑤　コロナ禍により、５・６年生全員に発展学習としての「出張ロボット体験授業」は実施できなかったが、希望者によるロボット教室を、年間計画のもと開講した。奈良県大会で優秀な成績を残し、ＷＲＯ（World Robot Olympiad）全国大会に出場した。また、低学年はアフタースクールと連携し、希望者体験教室を開催した。	⑤　発展学習として「出張ロボット体験授業」を実施する。

評価項目	具体的目標・方策及び評価指標 ※（　）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 （評価の観点、理由）	今後の課題・改善方策
３．国際理解教育の充実	①　４技能強化と授業との連携を意識した英語モジュール学習を計画的に実施する。また、学習内容の充実を図る。（英語科モジュール実施計画により、全担任で共有。月ごとに確認）	A	B	①　英語科主導による英語モジュール学習の計画を立案。学級毎に実施し、学習内容の充実を図った。	①　英語科モジュール実施計画により、全担任で共有。月ごとに確認する。
	②　他校との差別化を強調するため、国内留学の内容充実を図る。大学との連携により、新しい会場において、より効果的でリスクの少ない行事の在り方を模索し、対外的に発信する。（国内留学の効果的な実施。実施後児童アンケートにより内容を検証。保護者へ提示。）	A		②　夏季休暇中の帝塚山大学東生駒キャンパスを借用し、日常を離れた広々とした会場において、効果的でリスクの少ない行事として国内留学を実施した。今回の実績を検証し、系統的なプログラムを構築した。	②　国内留学の効果的な実施。実施後児童アンケートにより内容を検証。保護者に提示する。
	③　国際理解の礎となる日本文化への理解が深められるような授業や校外学習を実施し、外部に発信できる情報を身につける。（外部に発信できる情報として日本文化の体験学習を実施）	C		③　外部に発信できる材料として、日本文化や伝統文化、伝統工芸などを知る機会を計画していたが、コロナ禍もあり、十分に機会の確保ができなかった。	③　外部に発信できる情報として日本文化の体験学習を実施する。
４．特別活動・体験教育の充実を図り、ESD教育の展開をめざす	①-1　「本物にふれる教育」を目指し、各教科における校外学習・現場実習を充実させる。また、その効用を広く保護者や外部に広報し、本校教育の特徴をはっきり印象付ける。（ホームページ、学校だよりに記載）	A	A	①-1　「本物にふれる教育」を目指し、体験学習や出張授業などを積極的に実施した。また、夏期合宿ができなかった学年でも、日帰りで現地に行き、予定していた体験活動を実施した。	①-1　ホームページ、学校だよりに記載し、保護者に周知する。
	①-2　外部講師出張授業を積極的に計画実施する。また、外部機関と連携し、環境教育をより一層推進することにより、ESD教育の展開をめざす。（全学年での外部講師授業を年間最低１回実施）	A		①-2　全校対象の演奏会を実施したのをはじめ、学年によって、外部講師出張授業を７回実施。環境教育や社会教育を推進した。	①-2　全学年での外部講師授業を年間最低１回実施。
	②　「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、教科・学年の枠を超えたカリキュラムマネジメントを行い、外部講師出張授業を積極的に計画実施する。また、卒業生や保護者によるキャリア教育を推進する。（卒業生や保護者によるキャリア教育を実施）	A		②　「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、外部講師出張授業を７回実施した。また、卒業生によるキャリア教育を実施した。	②　卒業生や保護者によるキャリア教育を実施。
５．「帝塚山で学び、育つ」ことを意識した学園各学校園の連携強化・内部進学の推進	①　帝塚山大学教育学部との相互の連携を深め、授業研究、採用試験に向けた実習を充実させる。さらに、学生の現場経験を進めるために、教育サポーターを充実させる。（教育学部学生の教育サポーターを定期的に実施）	A	B	①　帝塚山大学教育学部との連携を深めた。教育サポーターを積極的に募集し、定期的な教育サポーターの参加により、指導の充実を図ることができた。また、現代生活学部食物栄養学科との連携により、食育、健康教育を推進したほか、心理学部による教員研修を実施した。	①　帝塚山大学教育学部学生の教育サポーターを定期的に実施、充実を図る。

評価項目	具体的目標・方策及び評価指標 ※（　）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 （評価の観点、理由）	今後の課題・改善方策
５．「帝塚山で学び、育つ」ことを意識した学園各学校園の連携強化・内部進学の推進	②　帝塚山中学校・高等学校との生徒児童間及び教員間での教育連携の推進を模索する。 　また、内部推薦制度を有効に活用するために、制度の再検討を進め、内部中学出願率、進学率の向上を目指す。教科指導面における小学校と中学校間のさらなる情報交換を図り、効果的な小中連絡を実現する。（教科間における小学校と中学校間のさらなる情報交換を実施）	B	B	②　帝塚山中学校・高等学校との生徒児童間の連携は十分できなかったが、教員間では、教育内容の情報交換などを４回実施した。 　また、内部進学推薦制度を有効に活用するために、制度の再検討を進めた。内部中学校出願率、進学率は昨年に及ばなかった。	②　教科間における小学校と帝塚山中学校間の情報交換を推進する。
	③　帝塚山幼稚園との算数、英語などの授業連携を推進するとともに、教員交流を積極的に行い、幼稚園小学校両校園の教育内容の相互理解を深める。 また、帝塚山幼稚園との園児児童間交流の在り方を検討し、幼稚園３学年との連携を図る。（幼稚園小学校両校園の教育内容の相互理解）	A		③　帝塚山幼稚園との算数、英語などの教員交流を行った。幼稚園小学校両校園の教育内容の相互理解について、管理職を中心に交流を深めた。 　　また、帝塚山幼稚園との園児児童間交流を開催した。	③　帝塚山幼稚園と小学校それぞれの教育内容情報を共有し、相互理解を図る。
	④　今後ますます少子化が進行する現状をふまえ、選ばれ続ける私学を目指し、学園としての内部進学の在り方について共通認識を持つ。小学校から帝塚山中学校へ進学を希望する保護者の思いに応えることのできる進学制度について、中学校管理職と議論を重ね、現制度の再検討をもとに、少子化に対応できる新制度の方向性と小学校の学習カリキュラムの整備を進め、基礎学力の向上を目指す。（児童それぞれの特性に応じた進学指導・助言を充実。家庭との連携内部進学率向上）	A		④　小学校から帝塚山中学校への進学制度について、中学校管理職と議論を重ね、現制度の再確認を実施。小学校の学習カリキュラムの整備を進め、基礎学力を向上させた。また、保護者の要望に応えるため、進路指導部を中心に、内部・外部両方向にむけた進路指導の実現を図り、児童それぞれの特性に応じた進学指導・助言を充実させた。	④　児童それぞれの特性に応じた進学指導・助言を充実。家庭との連携による内部進学率を向上させる。
６．人権教育・道徳教育を強化し人間性を築く	①　児童の人権意識を高めるには、教員組織の共通理解に基づく日々の生活指導が重要である。また、他教科との総合的な学習により、多様性を認める人権の新しい価値観の育成に努める。（人権委員会主導による人権学習を学期に１回は実施。学習内容・目標を保護者に伝える。）	A	A	①　人権委員会の主導のもと、児童の人権意識を高めるために日々の生活指導を重視した。また、他教科との総合的な学習により、新しい価値観を育成した。	①　人権委員会主導による人権学習を学期に１回は実施。学習内容・目標を保護者に伝える。
	②　年間計画に従った道徳教育を実施すると共に、クラスの実情に応じた授業を構成し実践することにより、普遍的な人間性の育成をめざす。学習の成果を学年ごとに持ち寄り、学習内容についての検証を行う。（学期ごとの道徳教育目標を各学年で設定）	A		②　年間計画に従った道徳教育目標を学期ごとに設定。クラスの実情に応じた授業を実践した。また、その内容を集約し、検証した。	②　学期ごとの道徳教育目標を各学年で設定。系統的に検証する。

評価項目	具体的目標・方策及び評価指標 ※（　）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 （評価の観点、理由）	今後の課題・改善方策
７．学校評価の実質化	①　保護者アンケートの集計結果・内容について検討し、その分析結果を活用して自己評価をより組織的に実施する。今年度の課題を教職員で共通認識し、問題点の改善、解決を図る。（保護者アンケートの結果を分析し、課題を教員間で共通認識）	A	A	①　昨年度末に実施した保護者アンケートの集計結果・内容について検討した。その分析結果を活用して自己評価を教職員で共有し、問題点の改善、解決を図った。	①　保護者アンケートの結果を分析し、課題を教員間で共通認識を図る。
	②　学校関係者評価委員会を開催し、その評価結果を踏まえ、学校運営の改善を図る。（学校関係者評価を踏まえ、改善のための検討を実施）	A		②　学校関係者評価委員会を開催し、その評価結果を踏まえ、給食の改善と保護者への啓発、また労働環境改善等、学校運営の改善を図った。	②　学校関係者評価を踏まえ、改善策の検討・実施。
８．教員評価の実施推進	①　各教員が明らかにした年度重点目標を踏まえ、中間期面接、学年末面接を実施し、各自の目標達成進捗状況を確認する。（各自の重点目標達成進捗状況）	A	A	①　各教員が明らかにした年度重点目標を集約し、各自の目標達成状況及び進捗状況を確認した。	①　各自の重点目標達成状況及び進捗状況
	②　教員自己評価の内容を教員組織内で共有し、全体の課題の認識をめざす。これにより、組織全体としての意識向上を図り、学校運営の改善をめざす。（教員各自が当事者意識を持ち、組織全体としての意識向上）	A		②　教員自己評価の内容を教員組織内で共有し、全体の課題の認識を図った。	②　教員各自が当事者意識を持ち、組織全体としての意識向上を図る。
９．募集活動･広報活動の強化	①　総合学園のメリットを最大限に広報し、学園と連携して、入学募集定員の充足を図る。コロナ禍で広報活動が制限される現状を踏まえ、各家庭に正確で新しい情報を届けることができるように、オンライン等を活用し、効果的な広報活動を進める。（効果的な広報活動の実施。保護者の関心を集めるため、担当制度を定着。募集定員以上の確保。）	B	B	①　各家庭に正確で新しい情報を届けることができるように、ホームページを充実するなど、効果的な広報活動を進め、総合学園のメリットを最大限に広報し、入学募集定員の充足を図ったが、募集定員を充足することはできなかった。	①　効果的な広報活動の実施。保護者の関心を集めるため、担当制度を定着。募集定員以上の入学者を確保。
	②　幼児教室や外部幼稚園にて体験授業、説明会、教育講演会を積極的に開催し、教育方針・教育内容の理解を深めていただくよう、内容の充実を図る。（外部幼稚園・幼児教室での広報活動の機会を増加）	A		②　幼児教室や外部幼稚園にて体験授業、説明会、教育講演会を12回開催した。昨年度より回数・内容ともに向上した。新しい対象園を開拓。内容の充実を図った。	②　外部幼稚園・幼児教室での広報活動の機会を増加。新しい機会を開拓。
	③　在校生保護者や卒業生に協力を仰ぎ、本校の教育を体験して感じた魅力を、広く外部に発信し、帝塚山教育の理解をより深めていただく。（在校生保護者や卒業生からナマの声を集めて広報）	C		③　コロナ禍により、卒業生保護者の会や、同窓会行事を実施することができなかったので、在校生保護者や卒業生を通じての本校の魅力の発信が十分にできなかった。	③　在校生保護者や卒業生からナマの声を集めて周知する。

評価項目	具体的目標・方策及び評価指標 ※（　）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 （評価の観点、理由）	今後の課題・改善方策
10. 学校リスクの対策強化・保健衛生管理の徹底	①　事件・事故の未然防止に向け、安全対策の徹底と個人情報、守秘義務の徹底を図る。 　また、保護者に対する情報セキュリティーやマナーなどの啓発活動を充実させるとともに、いじめ防止対策「スタンドバイ」システムのさらなる活用を図り、問題点を教員組織で共通認識する。（防災訓練計画案、校長室だより、防災訓練マニュアル、ホームページ、学校だよりにより共有）	B	B	①　事件・事故の未然防止に向け、安全対策の徹底と準備について、職員会議において周知徹底し、教職員の意識向上を図った。また、保護者に対する情報セキュリティーやネットマナー等の啓発活動については、十分な対応ができなかった。	①　防災訓練計画案、校長室だより、防災訓練マニュアル、ホームページ、学校だよりにより共有。
	②　児童の保健衛生管理を一層向上させるため、保健体育部を中心に安全・健康対策の徹底を図り、内容を検証する。 　また、感染症対策（新型コロナ、インフルエンザ等）に向けて効果的な予防策を推奨し、感染症の予防に努める。（月１回の訓練を確実に実施。内容を検証し保護者にも伝える。）	A		②　保健体育部が中心となり、安全・健康計画を立案。内容の徹底を図った。また、感染症対策（新型コロナ、インフルエンザ等）に向けて効果的な予防策を推奨し、感染症の予防に努めた。	②　月１回の防災訓練（地震・火災・Jアラート）を確実に実施。内容を検証し保護者にも伝える。
11. 研究・研修の推進	①　新しい授業作りを進めるために、連合会の研修活動や他校との交流を積極的に進め、最新の情報収集や教員交流に努める。（　毎学期に全校的な授業研究を実施。他校とも交流。）	A	A	①　私立小学校連合会の研修活動が順次復活してきた。この機会を活用し、研修活動や研究など、他私学と積極的に交流した。	①　毎学期に全校的な授業研究を実施。他校とも交流する。
	②　本校独自の「おしらせ学習」をより一層充実させ、「課題解決学習」、「ＥＳＤ教育」について研究し、授業実践に反映する。（　「おしらせ学習」を充実。内容を広報）	A		②　本校独自の「おしらせ学習」を一層充実させ、「課題解決学習」、「ＥＳＤ教育」について研究した。その成果を校内に掲示するとともに、本校入学を希望する保護者層にも広く周知した。	②　内容が充実したものとなった「おしらせ学習」を保護者に訴求し、評価、賛同を得る。
	③　新しい時代の指導体制に向け、教科担任制の導入を推進し、効果的な教員配置を検討し、学校運営組織を構築する。（高学年での新教科担任制を実施。内容を検証。）	A		③　５・６年生において、教科担任制を順次導入。その成果について検証した。	③　高学年での新教科担任制を実施。内容を検証。
	④　各学年での学力定着を強化し、児童のさらなる学力向上を図る。タブレット導入にあたり、ＩＣＴを有効活用した学習の個別最適化をめざす。（基礎学力定着の強化）	A		④　児童の学力向上を目指し、各学年での学力定着を図った。また、タブレット導入にあたり、ＩＣＴを有効活用した学習の個別最適化をめざした授業実践を研究している。	④　基礎学力定着の強化・充実を図る。
	⑤-1　授業力のより一層の向上を図るため、帝塚山大学教育学部と連携し研究公開授業を積極的に実施する。（連携研究授業の実施）	A		⑤-1　帝塚山大学教育学部の授業見学やインターン活動を通して、両校が連携を深めると共に、授業力の一層の向上を図るため、校内公開授業を４回実施した。	⑤-1　連携研究授業の実施・インターン活動の充実。

<table>
<tr><th>評価項目</th><th>具体的目標・方策及び評価指標
※（　）内は評価指標</th><th colspan="2">自己評価
結果</th><th>評価結果の分析
（評価の観点、理由）</th><th>今後の課題・改善方策</th></tr>
<tr><td>11. 研究・研修の推進</td><td>⑤-2　新学習指導要領について、また、ＩＣＴを活用した授業実践について、教育内容・方法等に関する研修を実施する。また、その内容を検証し、問題点を修正する。（タブレットを活用した授業研究の実施）</td><td>A</td><td>A</td><td>⑤-2　ＩＣＴを活用した授業実践について、研究授業を１回実施。活用法や教育内容について検証し、問題点を検討した。</td><td>⑤-2　タブレットを活用した授業研究の実施及び学習ソフトウエアの充実を図る。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">12. 経営安定化策の強化</td><td>①　費用対効果を十分に考慮した学校予算の精査などの節減対策をさらに推進する。（決算状況を教員間で共通理解）</td><td>A</td><td rowspan="2">A</td><td>①　費用対効果を十分に考慮した学校予算の精査などの節減対策を推進した。</td><td>①　決算状況を教員間で共通理解する。</td></tr>
<tr><td>②　教員の定員管理を厳守する。教職員の健康管理、メンタルヘルスケアに留意し、突発事項に早急に対応する。（教員の健康管理）</td><td>A</td><td>②　教員の心身の健康管理を啓発。教員組織の安定を図った。</td><td>②　メンタルヘルスケアの実施。</td></tr>
</table>

３．学校関係者評価

（学校関係者評価実施日：令和5年4月19日。
学校関係者評価委員会委員：帝塚山小学校育友会役員、帝塚山大学教育学部教授・帝塚山幼稚園園長）

意　　見	改　　善　　方　　策
①　「出張ロボット体験授業」が実施できなかったのは、社会情勢によるものでやむを得ないが、先進的な取り組みなので、今後の活動に期待する。	① コロナ禍により外部講師による授業は実施できない状況が続いていた。状況が改善してくれば、このような積極的な取り組みを徐々に復活させ、保護者の期待に添えるものにしていきたい。
② 募集活動・広報活動については課題が多いと感じる。私学教育に対する保護者のニーズが多様化し、内部幼稚園においても、他の私学校との比較や選択が強まっている。もっと、帝塚山小学校の良さや魅力をアピールしていく必要がある。 SNSを効果的に活用するなど、募集活動・広報活動の方法をもっと模索すべきである。	② 児童募集・広報活動は、帝塚山小学校においても喫緊の課題である。特に最近は様々な情報が交錯している状況になってきているため、その中でいかに特色を出し、他私学と比べて「帝塚山教育」がいかに魅力的であるかをアピールすることが重要であると考えている。そのために、ホームページでしっかり発信するだけでなく、出張説明会等の広報活動をさらに積極的に行いたい。また、子育ての参考になるような情報も織り交ぜながら、本校の教育実践を積極的に紹介し、帝塚山小学校の良さを伝えていきたい。そのためにも、SNSの活用について、積極的に吟味検討する。
③ 総合学園としての建学の精神や教育方針などを、保護者と共有できる場や連絡方法があれば良い。学園と保護者が総合的に連携していけるようなシステムが構築できないか。	③ 総合学園としての目標や計画については、第５次中期計画でも示しており、学園ホームページ等も見ていただけるよう案内をしていきたい。小学校保護者会や個別相談の機会に意見交換等を行い、総合的に連携を深めて進めていきたいと考えている。
④ 内部幼稚園内では、内部進学について不確かな情報が流れている。帝塚山小学校の良さや正しい情報を積極的に伝えていくべきである。	④ 小学校では内部進学希望者を大切にしたいと考えている。そのためにも、正しい情報を確実にお伝えすることが重要である。現在の保護者には様々な情報が入っているものと思われるが、その中にはフェイク情報や誇張した情報も数多く含まれているように思われる。内部幼稚園を対象とした説明会や体験授業をより充実させ、正しい情報をしっかり伝え、安心して進学できるような態勢を構築していきたい。